

市民学コース 富士見の歴史講

第1回

寺子屋から小学校への変遷 ～庶民と教育～

日時 11月1日(土) 10:00～11:45
会場 鶴瀬公民館 第3集会室
講師 富士見市難波田城資料館長 駒木 敦子氏
受講生 22名

はじめに

本日のテーマは南畑地区だけでなく富士見市全体の寺子屋から小学校への変遷を扱い、並みの人である庶民が知識を得るための教育施設の歴史の一端を紹介してもらいました。「富士見市史」に詳細が記載されているので参照。



1. 寺子屋とは

- ・寺子屋は庶民自らの力により発展
- ・江戸時代には必要により「読み・書き・そろばん」を習う寺子屋が普及
- ・寺子屋師匠は僧侶が多く、名主、修験者もいた。
- ・入門年齢、在学期間、性別は不定。6歳前後で入門、5～6年の在学が一般的
- ・教育内容は地域社会の要望。ハウツーもの。
- ・指導は個別指導
- ・教科書は往来物と呼ばれるもので弟子に合わせた内容を選んだ

往来物の紹介



2. 寺子屋普及以前の庶民の読み書き能力

「村政」分類文書から当時の庶民「書く」能力を伺うことができる
県立文書館 地方文書の残存状況

3. 富士見市域のあった寺子屋・筆子塚

師匠、がなくなった後、筆子が建立した墓や供養塔のこと。

最古は延宝4年（1676年）、最新は明治24年（1891年）

寺子屋の経営は村民の意向が大きく勝手に後継者や閉鎖ができなかった。インフラとして必要。



4. 村の開化～小学校の設立～

- ・ 学制発布 明治5年（1872年8月）義務教育制度 当初は女子の就学率が低い
- ・ 義務教育制度のスローガン「必ず邑に不学の戸がなく家に不学の人なからしめん」
国は富国強兵にふさわしい国民を育成が目的
- ・ 明治の初め 約160人が寺子屋に在学していたが、寺子屋は廃止
- ・ 明治6年（1873年）11月 寺子屋があった下南畑、水子、鶴馬、勝瀬など8村は連合して鶴馬学校（来迎寺）が開校 明治10年（1877年）には6校
就学率は鶴馬学校区24.6%、南畑学校区13.6%と低く、特に女子が低い
- ・ 学科は、読本、習字、算術、修身口授・教師の指令に従い、行儀よく
- ・ その後、教育制度は短期間で度々改定（授業料は資産状況によって等級を設ける）
- ・ 明治末には授業料無料化によって就学が促進された

質 問

2人の方から明治初期の師範学校制度、筆子塚について

参考「新編 富士見のあゆみ」「埼玉県教育史」「新編 埼玉県史 通史編近世」
「富士見市史 通史編 上下巻」
「難波田城資料館常設展示図録」など

資料

学校設立議定 明治6年（1873年）など



報告 加藤久美子（理事）